

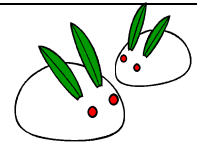


校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥
令和2年1月29日
☎55-2260 第10号

教育目標

ふるさとに誇りをもち
夢と希望に満ちた
心豊かでたくましい児童の育成



新しい年2020年

令和2年、西暦2020年の新春を迎えました。保護者・地域の皆様には、ご家族そろって清々しい正月を迎えたこと、お慶び申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。また、震災からもうすぐ9年。振り返ると、命の大事さを何度か子どもたちに伝えてきました。今年も命の重みをみんなで確かめ、教育の原点に立ち返りたいと思います。さて、「一年の計は元旦にあり」という言葉のごとく、新年を迎えた瞬間には、今年こそは去年できなかったことや、もっといいことを実行しようという思いがこみ上げてきます。同じ日常の連続に過ぎない1日なのですが、不思議なものです。そして、子どもたちもきっと、新しい何かを期待し、頑張る気持ちを沸き立たせたいと思っていることと思います。この一年、ぜひ「新年の抱負」「新年のちかい」を持たせ、その実行に粘り強く取り組ませたいと思います。「継続は力なり」のごとく、大きな飛躍の年にさせたいと考えています。

ところで、今年の子年です。子年はどんな年なのでしょう。ねずみは、たくさんの子を産むことから繁栄の象徴とされています。また、子年は十二支の中でも一番目にきているように、子年を植物にたとえると新しい生命が種子の中にきざし始める時期で、新しい物事や運気が回り始める年になると考えられています。さらに子年生まれの方は、ねずみが「寝ず身」になるように真面目にこつこつと働き、儉約家でもあるので、若い内うちからお金も貯まるということです。

学校、保護者、地域の皆様とともに、こつこつと努力が実る素敵な子年になり、安泰な日々が過ごされるようご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

成功から学ぶ

先日、校内席書大会が行われました。冬休み前から子供たちは、書きぞめ練習を熱心に行ってきました。はらい、はね、止め、筆の勢いや線の太さ等々気をつけなければならないことがたくさんあるわけですが、練習していく中で、はらいがうまくできなかった子どもが、上手くはらいができるようになったことで、自信につながり、とても上手な作品を仕上げることができました。自分がしたことを振り返って反省する場合は、「失敗から学ぶ」だけではなく「成功から学ぶ」という視点が大切になるんだと思われました。次回も挑戦するときには、「何故、できたのか」「どうして上手にいったのか」その要因をはっきりさせておくことも重要だと考えます。

体育の時間に跳び箱運動で初めて跳べるようになった時、喜んでいるだけではいけないのです。良かったのは助走なのか、それとも踏み切りなのか、手の着き方なのかを明確にすることが必要です。そうすることによって、次回からも確実に跳ぶことができるはず。また、算数の文章問題では、1つの問題を正解しただけで安心してはいけません。できた問題を振り返り「何故この式になったのか」を確かめることで、理解が深まり、次の問題も正解することができるようになります。「成功から学ぶ」ということは、“できた”“分かった”を大切にするということなのだと思えます。校内席書大会から感じたことでした。



【校内席書大会】